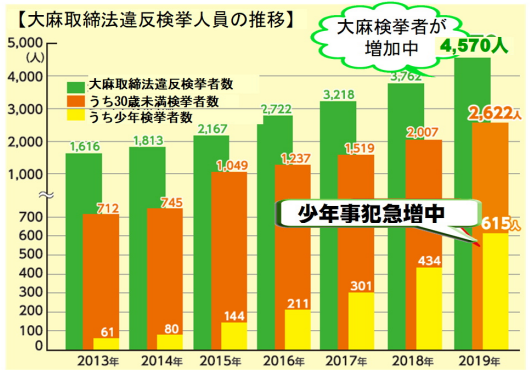


薬物乱用防止について



薬物乱用の現状等について

質問

三重県においての、大麻事犯は、若者層を中心に急増し、五年前と比較すると二倍以上に増加している。若年層の薬物乱用防止に、どのように取り組んでいるのか。

警察本部長

入手経路はSNSが多く、入手の手軽さや仲間うちの乱用がうかがわれ

れる。覚醒剤と比較すると有害性を過小に見積もったり乱用の違法性を軽く考えている若者が多いことが、乱用拡大の原因となっている。

今後も学校の協力の下で、若者への助言指導の充実を図っていく。

児童生徒及び教職員への指導について

質問

薬物の乱用は、脳を始め身体の主要器官に悪影響を及ぼすことを児童生徒に伝える事は不可欠である。このような事から学校等からの依頼を受け警察官、保護司、ライオンズクラブ、学校薬剤師などが、小中高生を対象に薬物乱用防止教室等の活動を行っている。そんな中、今年一月に小学校の非常勤講師が大麻所持で逮捕されたが、学校では教職員にどのような指導を行っているのか。



薬物乱用防止教室の講師

教育長

教壇に立つ者として断じて許されない。県教育委員会では市町教育長会議において、コンプライアンス意識の一層の向上と再発防止を徹底した。また、臨時講師の服務規律についても、研修方法を見直すなどの改善を図っていく。

今年度、教職員の不祥事が相次ぎ、公教育への信頼が著しく損なわれていくことを大変重く受け止めている。

今後、公教育の信頼回復に向けた取組を徹底していく。

内水面漁業の振興について

質問

水産資源や漁場の直接的な管理者は国や都道府県ではなく、地縁的な繋がりが持つ、内水面漁協が担ってきたが、内水面漁協の多くは、組合員の減少や高齢化に伴い活動が低下している。こうした内水面漁協の活動低下は河川の水産資源の減少や環境の悪化を引き起こしている。

県として、令和三年度から始まる「内水面水産資源の回復促進事業」を通して、どのようなサポートを行っているのか。



櫛田川の稚鮎汲み上げ放流

農林水産部長

子どもたちが自然の大切さを学べる交流の場を提供する漁協に対して、放流経費を一部支援するとともに、遊漁券のオンライン販売等、遊漁者確保に向けた積極的な取組を支援する。

また、放流したアユ等の資源保護に向けて、内水面域からのカワウ追いや払いやコロナ対策などを支援し、内水面水産資源の維持、増大や遊漁者の増加につなげていく。

田中ゆうじ事務所

515-0022

松阪市新屋敷町409

TEL0598-50-2322

FAX0598-50-2319

http://tanaka-yuji.xrea.jp

mail:toubu-01@mctv.ne.jp

ホームページ

